

何なん？あいつ！？



何なん？あいつ！？

①

文 ぶん
絵 え

美作福祉部隊リカイヒロメタインジャー
 薬師寺 明子
 武井 陽子

演出 ノート

太郎君は、パオ町に引っ越してきたばかりの、小学5年生です。
 この町にきてから、よく分からないことがたくさんあつて、戸惑っています。
 今日、なんだか、ヘンテコな女の子に会ってしまいました。

《 抜 く 》

『何なん？あいつ！？』

発行日：2009年11月

発行者：プロテクション・アンド・アドボカシー・大阪（P&A-大阪）

〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町1-46-4

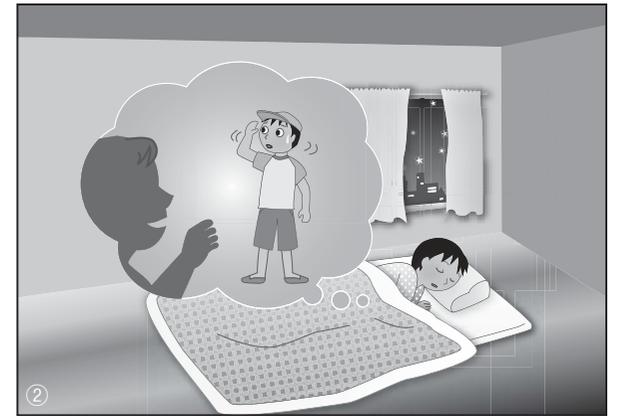
昭和土地建物ビル2F 辻川法律事務所内

文：美作福祉部隊リカイヒロメタインジャー
薬師寺 明子（美作大学 福祉のまちづくり学科）

絵：武井 陽子

この紙芝居は、大阪阿倍野ロータリークラブの助成により作られました。

何なん？あいつ！？



②

その夜、慣れない町で、なかなか眠れない太郎君が、や
つと、ウトウトしだすと、誰かが呼ぶ声が……
《抜く》

さつと抜く

何なん？あいつ！？



③

エンジェル

「こんばんはー。ぼくエンジェル君くんです。君きみの疑問ぎもんに答こたえにき来ましたよ。」

《抜ぬく》

元気げんきよく

何なん？あいつ！？



④

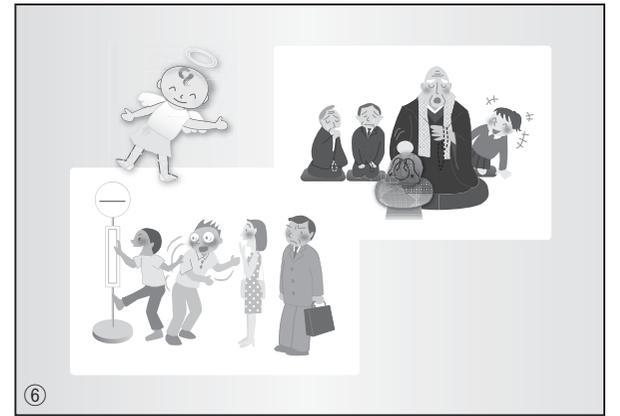
いきなり表れたエンジェル君、これまた、いきなり説明
を始めました。

エンジェル

「太郎君が今日会った女の子はヘンテコではないんで
すよ。女の子が泣き出したのには、わけがあるんですよ。
彼女には障害があるんです。」

《 抜 く 》

何なん？あいつ！？



エンジェル

「太郎君はお葬式で笑い声を上げたり、並んでいるところに割り込んだりしませんよね・・・でも、知的障害のある人たちは、その場に応じた行動が取れないことがあるのです。」

《 抜 く 》

次ページは
1 / 3 ずつ 抜く

何なん？あいつ！？



7

エンジェル

《1/3だけ抜いて》
 「また、自閉症と呼ばれる人もいます。自閉症の人は、人とのお付き合いが苦手で、コミュニケーションが上手く取れません。」

ここまで抜く

エンジェル

《2/3抜いて》
 「なので、話しかけられても、自分に言われているのかわからないこともあるし」

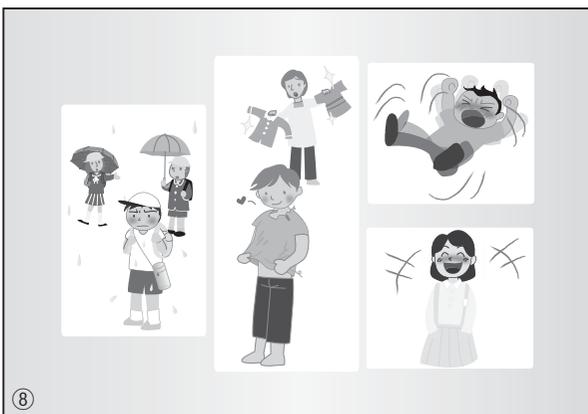
ここまで抜く

エンジェル

《全部抜いて》
 「話しかけられた言葉を、繰り返してしまうこともあります。」

《抜く》

次ページは
1/3ずつ抜く



⑧

エンジエル

「突然かんしゃくを起こしたり、急に笑い出したり、」

《1/3だけ抜いて》

ここまで抜く

エンジエル

「気に入ったTシャツばかり着ていたり、」

《2/3抜いて》

ここまで抜く

エンジエル

「雨で遠足が中止になっても、予定を変えられなかったりします。」

《全部抜いて》

エンジエル

「いえいえ、ヘンではありませーん。周りに分かってもらいにくいだけで、ちゃんと理由があるんですよ。」

エンジエル

「自分の気持ちを周りの人に全然わかってもらえなかったら、太郎君はどんな気持ちになりますか？周りの状況を理解できなかったら、新しいことや急な変更って、不安ではありませんか？」

《抜く》

何なん？あいつ！？



9

エンジェル

「障害のある人も、無い人も、いろんな人がいます。それぞれ、得意なことや苦手なことがあって、当たり前なのです。」

みんなそれぞれが違うってコトを理解して、それぞれの苦手なところを手助けすれば、みんな、もっと楽しく暮らしていけると思うのです。周りの人たちの理解があれば、へんてこな子だと思われなくなると思いませんか？」

《 抜 く 》

2 / 3 次ページは
抜く

何なん？あいつ！？



10

デビル

太郎

「フフフフフ……甘いわね」

「誰？」

《2/3抜いて》

不気味に

ここまで抜く

さっと抜く

デビル

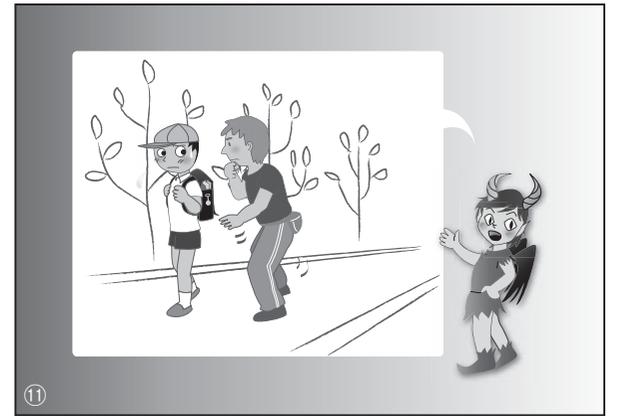
「はい、私、デビルちゃん。太郎君、今の説明で、本当に納得できました？」

《全部抜いて》

《抜く》

明るく

何なん？あいつ！？



11

デビル

「太郎君さあ、この前、変な人につけまわされたじゃない。あれ、怖かったよね。人それぞれ、とか言ってる場合？」

そうなのです。先週、下校する太郎君に、一人のお兄さんが、ずーっとついてきたのです。

《抜く》

何なん？あいつ！？



12

エンジェル 「いえいえ、彼は、太郎君に危害を加えようとして、近

づいてきたではありません。

太郎君のランドセルに付いていた、この、ゴールドキー
チエーンのせいなのです。」

太郎 「他の球団のファンだから怒って？」

エンジェル 「いえいえ、キラキラ光ったから、気になってしまっ

たのでしよう。知らない太郎君に近づいてジロジロ見るこ
とが、おかしいこととは分らなかったのですよ。」

《抜く》

2 次ページは
3 抜く



《2/3抜いて》

デビル

「じゃあ、この前の公民館のイベントは？ すげえ、ム

カツク奴がいたじゃん。」

太郎

「あ、そうそう。混んでいたから、『ちよっと寄って』
って頼んだのに、むこうも『チョットヨッテ』って言うんだ！」

……ここまで抜く

《全部抜いて》

エンジェル

「それは、コミュニケーションの障害です。『寄って』の意味がわからないまま、繰り返して同じことを言ってしまったのです。」

太郎

「あ、さっきの自閉症ってやつ？」

エンジェル

「はい。座らせてほしいということが伝わらなかったんですね。座るかっこうや、寄ってほしい場所を指すなどの、ヒントがあれば、伝わったかもしれませんよー」

《抜く》



《2/3抜いて》

デビル

「でもでも、今日のは、なんなのよ。掃除してたと思ったら、太郎君が通ったとたんに泣き出しちゃった子がいたじゃない」

デビルちゃん言葉に、太郎君はうなずきます。

あれは本当にびっくりしました。

と、エンジェル君が聞きました。

エンジェル

「あの時、太郎君、なにかにつまづきませんでしたか？」

太郎

「そういえば、カッーンと……」

「」まで抜く

《全部抜いて》

エンジェル

「太郎君は、彼女のちりとりを蹴ってしまったのですよ。」

ちりとりが置いたところに無くて、とっても不安になったのだと思いますよ。

さっきまであった物が急に無くなったら、誰でもビックリしませんか？」

太郎

「うん、あれ〜って思うかな……」

それは、悪いことしちゃったな……ヘンテコなんて思っ
って、悪かったな……」

太郎君は、すっかり納得しました。

デビルちゃんも、もうエンジェル君に反論できないよう
です。

《抜く》

何なん？あいつ！？



15

太郎君は、パオ町に来て以来の、モヤモヤとした不安が解消されて、安心して寝てしまったようです。

エンジェル

「分からないことがあると誰でも不安ですよ。まず、理解しようとするのが、いろんな人と楽しく暮らしていくためのヒケツですよ。」

デビル

「私も、みんなと楽しく暮らせるかな・・・」

エンジェル

「もちろんですよ。デビルちゃんは、ちよつと疑り深い・・・いえいえ、用心深いだけ。それも大切な個性です。」

お互いが、お互いの個性を大切にしていく社会は、誰にとっても、暮らしやすい社会なんです。ね。」

太郎君も、今日から、この町が大好きになりそうです。

(おしまい)

ちよつと小声で
ヒソヒソと